



2022年8月10日

日本鉄道労働組合連合会

## 連合「2022 平和行動 in 長崎」に参加

# 核兵器廃絶と世界恒久平和を祈念

8月9日、長崎は77回目の「原爆の日」を迎えた。JR連合は8月8日～9日の2日間、連合「2022 平和行動 in 長崎」の取り組みとして、長崎市内各地で開催された集会や慰霊式等にJR四国労組及びJR九州労組の組合員とともに参加した。参加者は、原子爆弾の犠牲となった方々を悼み、核兵器廃絶と世界の恒久平和実現を祈念した。

8月8日には、長崎県立総合体育館・メインアリーナにて開催された、連合「2022 平和ナガサキ集会」に参加した。来賓として招かれた田上富久長崎市長は、ウクライナを侵攻したロシアが核兵器使用を示唆したことに触れ、「核兵器をなくすことが人類の未来を守る唯一の道だ」との内容を訴えた。また、被爆者を代表して当時の様子を語った（公財）長崎平和推進協会の三瀬清一郎氏は、「ナガサキが最後の戦争被爆地となるかどうかは、私たち人類がつくる未来によって決まる」旨を述べ、今なお世界に1万発以上ある核兵器の廃絶を訴えた。



8月9日には「2022 ピース・ウォーク」に参加し、連合長崎の青年・女性委員会のスタッフによるガイドを受けながら、爆心地公園や長崎市平和公園、平和祈念像を巡った。爆心地の下の川には、息絶えた人々の油が浮いていたが、それでも水を求め飲んだという痛ましい悲劇を刻んだ石碑と共に1969年に建設された「平和の泉」の清掃活動は、現在連合長崎が行っていることも学んだ。



連合長崎が清掃活動を行う  
「平和の泉」



JR連合は、ロシアによるウクライナへの軍事侵攻、核兵器による威嚇を決して許さず、世界各地において平和と安全が脅かされる戦争や紛争が発生している現状を憂慮し、綱領に掲げる通り、世界平和の実現に向け、連合をはじめ、理念を同じくする国内外との労働者と連帯して取り組む。

